無化学肥料栽培へのステップアップ

2022年度 特別栽培コシヒカリ（認証③）栽培ごよみ【直播】

ＪＡ越前たけふ
丹南農林総合事務所
越前市南越前町特別栽培
農産物生産者協議会

月旬別	2021年		2022年																				
	９月～１０月	10月～12月の期間中	４月			５月			６月			７月			８月			９月			９月～１０月	10月～12月の期間中
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
時　期	土づくり	農閑期				播種期	発芽、苗立期		有効分げつ期		無効分げつ期		幼穂形成期		出穂期	登熟期			収穫期		土づくり	農閑期
水管理	稲わらの鋤き込み 作土深１５cm以上 土づくり	湛水管理（2ケ月以上）		荒おこし		代掻き	１０日間 播種　落水	浅水管理で分げつ促進		現地検査		中干し延期	中干し	幼穂形成期から間断通水　徐々に地固め		現地検査					稲わらの鋤き込み 作土深１５cm以上 土づくり	湛水管理（2ケ月以上）

管理作業の要点

スタートは
土づくりから

ケイカルは化学肥料としてカウントしない

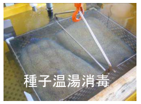
土づくり
ケイカル
500kg/10a散布

生き物や環境を育む活動
「ふゆみずたんぼ」冬期湛水（２ケ月以上）

秋耕し　作土深１５cm以上

次年度に向けて
けい酸補給と酸性土壌の改善
土づくり資材の散布
ケイカル５００kg／１０ａ　もしくは
しきぶホワイト１００kg／１０ａ
いね一番は化学肥料窒素混入のため使用しない
クロレートやラウンドアップも使用しない

温湯消毒済み種子をカルパーコーティング（ＪＡへ必要量を注文）


種子温湯消毒

カルパーコーティング種子

カルパーコーティング
カルパー粉粒剤　２倍重　４．６kg／１０ａ
ダントツフロアブル・ルーチンシードＦＳ
水温６０℃で１０分間浸種
（浸種後、直ちに冷却）
化学合成農薬の使用を低減する技術
（温湯種子消毒技術）
温湯消毒済み種子による

播種２～３日前に代掻き
土づくりに関する技術
（堆肥等有機質資材施用技術）
土づくり　ミネラルＰＫ　６０kg／１０ａ

播　種

糸張り（鳥害防止）

除草剤・予防剤散

基肥　ＨＧ有機６６６　６０kg／１０ａ
胴割・乳白米防止対策
５月上中旬播種　（播種後直ちに糸張り）
薄まき【２．１～２．３ｋｇ／１０ａ】
化学肥料の使用を低減する技術
（有機質肥料施用技術）

播種１０日後
カウンシルコンプリート粒剤（１kg・／１０ａ）
または　ジャンボ・フロアブル剤（３００ｇ／１０ａ）

播種２０日後　クリンチャー粒剤
１～１．５kg／１０ａ

軽く中干しを行う！
茎数100本/ｍで開始

畦畔除草　ラウンドアップマックスロード
液剤１００倍液

軽く干し溝きりの実施

最高分げつ期
茎数が550本/㎡
あれば十分

オモダカ等後発雑草の抜き取り

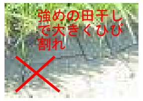
幼穂長２㎜の確認（通常は１０㎜）

有機肥料の場合、効果が
出るまで約１週間かかる
幼穂長２㎜　　１回目
1回目の7日後　２回目

倒伏防止対策
（茎数２００本／ｍ以上で注意）
スマレクト粒剤　２～３kg／１０ａ
こだわり有機７１２
２回目の穂肥（１回目の７日後）
こだわり有機７１２
１回目の穂肥（幼穂長２ｍｍ）
幼穂の確認
紋枯病斑の確認（紋枯予防剤の散布）
リンバー粒剤　３～４kg／１０ａ
一斉草刈デー（７月上旬）
一斉草刈デー（６月下旬）

ラジコン防除

足跡に水が残る程度維持


強めの田干しで大きくひび割れ

出穂前後は湛水管理徹底
出穂前～穂揃期カメムシ防除
ラジコン
２回目スタークル液剤
１回目エクシードフロアブル
個人防除
２回目アルバリン粉剤
１回目エクシード粉剤ＤＬ

胴割米対策
収穫２～３日
前
までの間断通水

胴割米防止対策
間断通水
（収穫２日～３日前まで）
フェーン時は予め入水、根の活性化を図る

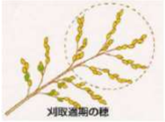
適期刈取
青籾割合10～15%
籾水分　20～25%

通常米と区分して収穫・乾燥

１．９mm以上網目で選別
籾水分２５％以下で収穫（９月１０日頃）

福井県認証
農薬1/2以内　化学肥料不使用
特別栽培農産物

乾燥作業はゆっく



ケイカル無償散布

特別栽培と環境保全の取組を

生き物や環境を育む活動
「ふゆみずたんぼ」冬期湛水（２ケ月以上）

秋耕し　作土深１５cm以上

次年度に向けて
けい酸補給と酸性土壌の改善
土づくり資材の散布
ケイカル５００kg／１０ａ

化学肥料窒素 栽培期間中不使用

ミネラルＰＫ　60kg

ＨＧ有機666を60kg/10ａ施用

有機肥料窒素のみを使用する

葉色、茎数、草丈に応じてこだわり有機712を施用
目安　平坦地30kg/10aの2回　山間地25kg/10aの2回

化学肥料窒素合計　不使用

節減対象農薬 11成分/10ａ以内

農薬の使用回数
いずれも1回

ダントツフロアブル
（1成分）

ルーチンシードFS
（1成分）

カルパー粉粒剤（1成分）

カウンシルコンプリート粒剤
ジャンボ剤
フロアブル剤
（2成分）

クリンチャー粒剤（1成分）

ラウンドアップ
マックスロード液剤（1成分）

リンバー粒剤（1成分）

スマレクト粒剤（1成分）

エクシード粉剤DL
（1成分）

アルバリン（1成分）

節減対象農薬合計　11成分